

未来への
手紙
選定会
選定作品

将来の福島県への願い

南相馬市立原町第一中学校3年 鈴木 真日瑠

福島県は、「うつくしま・ふくしま」のキ
ャッチフレーズのとおり、海も山もあり、美
しい景色が広がる場所です。

しかし、東日本大震災は一瞬でその美しい
景色を壊し、色とりどりだった世界を灰色に
変えてしまいました。あれから13年が経ち、
福島は少しずつ色を取り戻し、力強く前向き
に未来を明るく照らしています。

これからさらに「うつくしま・ふくしま」
を取り戻すためには、私たち若い世代が「ふ
くしまプライド」を持ち、地元を盛り上げて
いくべきではないでしょうか。

震災を乗り越えた「強さ」、そしてお互い
を助け合う「優しさ」を持ち合わせた故郷の、
美しい風景や各地方の伝統文化が、これから
も守られ続け、より多くの人々が魅力あふれ
る福島に訪れるようになることを願っていま
す。

将来の福島県への願い

いわき市立四倉中学校1年 杉山 想空

2011年3月11日、午後2時46分、東日本大震災発生。私が生まれる前の出来事でした。

私が生まれた年は2011年、震災の年。震災の年に生まれた私だからこそ、福島県に対する思いがあります。震災が起こってから、福島県の人口は減少し、地域の伝統芸能や文化も存続が難しくなっていました。私の住んでいる地域には、じゃんがら念仏踊りが昔から受けつがれています。今、中学1年生になった私は、伝統を守るため、父と共にじゃんがら念仏踊りに参加しています。

生まれ故郷は、家族と共に一番大切にしたいものです。自分の故郷だけでなく、福島県全体の少しでも早い復興を願うと共に、以前よりもっと魅力あふれる福島県になってほしいです。

将来の福島県への願い

二本松第一中学校1年 熊田 陽介

僕が将来の福島県に願う事はただ1つ。それは、福島県民全員が笑顔で幸せに過ごせる環境になることだけです。

東日本大震災から10年以上経った今、復興は進んでいます。まだ震災前の賑わいは戻っていません。しかし、東日本大震災が風化しつつあります。まだ自分の家に帰れない人も、大勢います。こんな現状を回復させるには、震災を経験した人が後世に記憶を伝え、いつ起きるか分からない災害のおそろしさを知ってもらわなければならないと思います。

震災の記憶が風化する前に、福島県民全員が繋がって安心して生活できる環境を整え、後世に震災の教訓を伝えていきたいです！

将来の福島県への願い

石神中学校2年 岩間 魁愛斗

将来の福島県への願いは、これからも復興が進み、みんなが安心して暮らせる場所になってほしいということです。

震災や原発事故で大きな被害を受けましたが、自然の美しさや地域の力で少しずつ元気を取り戻していると感じます。

僕は、福島が安全で豊かな地域になり、たくさんの方が訪れたり、住んだりしたいと思う場所になることを願っています。

みんなが協力して、未来に向けて前に進んでいけるような福島になってほしいです。そして、未来を担う子どもたちが、福島歴史や復興を学びながら、希望を持って成長できる場所になってほしいです。